

We Guard All

トップメッセージ | 高谷 康久

ネットセキュリティにおける
トップブランドへ

株主・投資家の皆様へ

E-G通信 2024年度 上期
2023年10月1日~2024年3月31日

サイバーセキュリティ分野における 国産メインプレイヤーへ挑戦します。

日本にはGAFGAに匹敵するようなデジタル企業が存在しないため、デジタル関連の輸出額から輸入額を引いたデジタル赤字は実に年5~6兆円にまで達しています。しかも経済的赤字のみならず、政府や自衛隊、警察といった日本の安全に直結する機関のサイバーセキュリティ対策も、諸外国と比較すると進んでいない現状が指摘されています。当社は、このサイバーセキュリティ分野における国産メインプレイヤーへの挑戦を、チェンジホールディングスとの戦略的業務提携によって、今期から本格的に開始しました。この壮大な挑戦に対する、株主の皆様のご理解、ご指導、ご鞭撻を賜りたく、心よりよろしくお願い申し上げます。

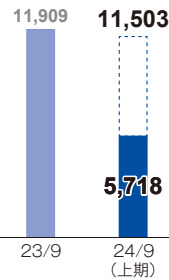


代表取締役社長
高谷 康久

業績ハイライト

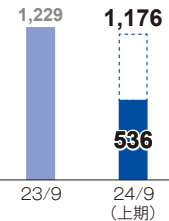
売上高

5,718百万円



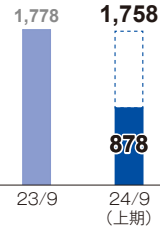
親会社株主に帰属する
当期純利益

536百万円



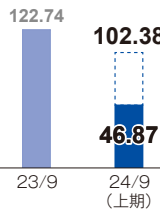
営業利益

878百万円



1株当たり当期純利益

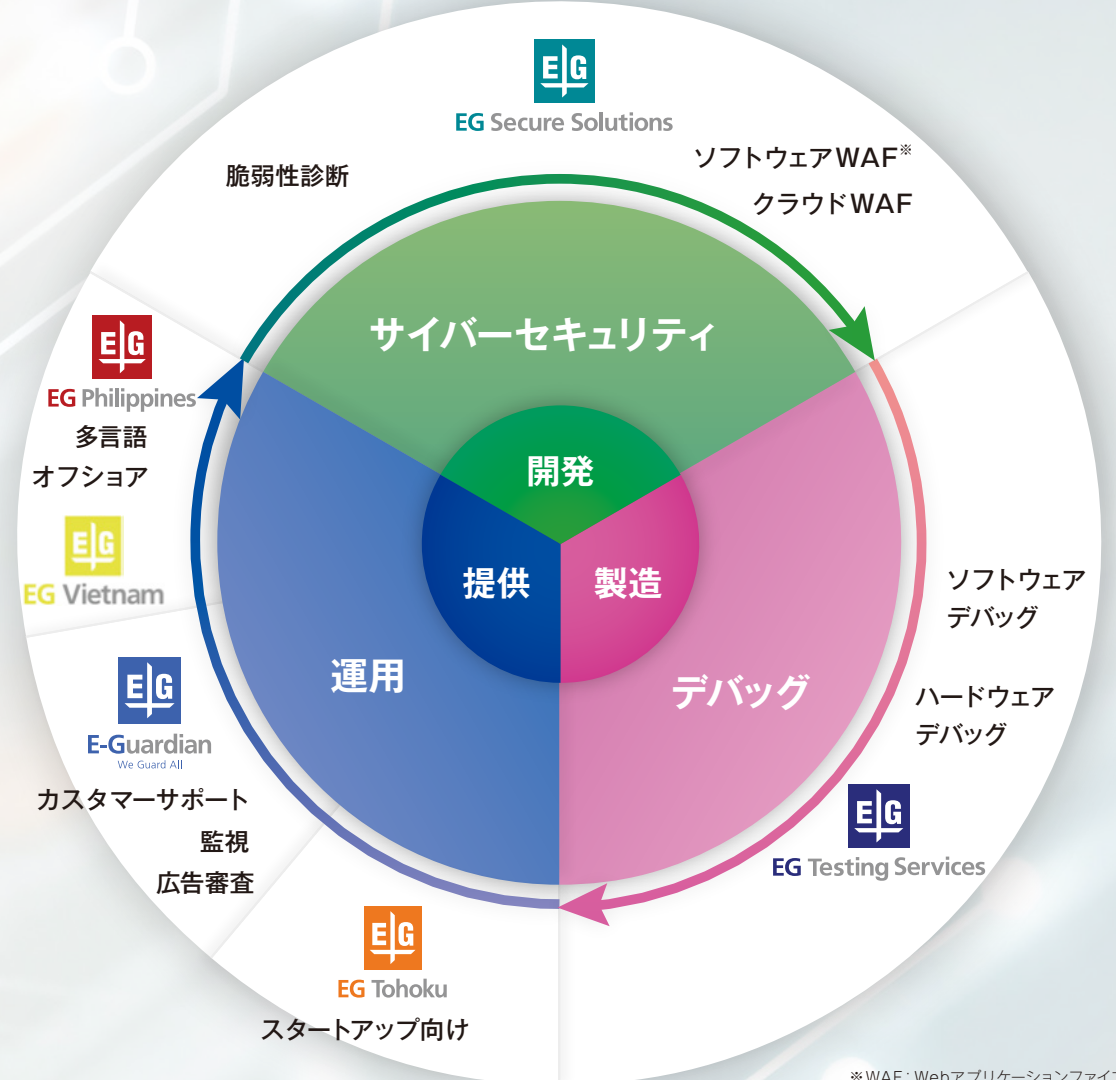
46.87円



Point サイバーセキュリティ事業が躍進

Fintech関連サービスの一部案件の需要が落ち着き、減収となったものの、EC・フリマサイト向けのカスタマーサポートが堅調に推移しました。また、サイバーセキュリティ事業は、脆弱性診断やWAFの拡販により大きく伸長いたしました。加えて、採用及び教育を中心とした社内体制の強化やエンタープライズ系デジタルBPO領域の拡大に向けた営業活動などの取り組みを継続してまいりました。

インターネットサービスを上流から下流まで支える セキュリティのワンストップサービス



*WAF: Webアプリケーションファイアウォール

エンタメ系BPOからエンタープライズ系BPOへの拡張で 業績のV字回復を図り、国産サイバーセキュリティの メインプレイヤーへの挑戦を本格化します。

2024年9月期第2四半期の業績について どのように評価されていますか。

第2四半期は連結売上高では対前年同期比7.0%減、連結営業利益では前年同期比6.6%減となりました。サイバーセキュリティは伸びていますが、それ以外が停滞しました。背景としては、ソーシャルサポート等の事業で既存案件の終了を新規案件でカバーできていなかったこと、また新たな流行やゲームのヒットタイトルが生まれていないことがあげられます。その中で当社としては個別の取引の採算性を見直し、赤字を出している契約や低利益率の契約の価格交渉に取り組みました。交渉に応じてもらえない場合には契約を終了することも含めて推進した結果、筋肉質な収益構造に移行しつつあります。

また、ご存知のように当社は昨年9月に株式会社チェンジホールディングス・グループの一員となり、同社との戦略的提携のもとに新しい挑戦を開始していますが、成果が数字に表れるには今しばらくの時間を必要としています。現在は、その過渡期と捉えています。

チェンジホールディングスとの提携の進捗について教えてください。

チェンジホールディングスが友好的TOBと増資引受により当社の株式の49.9%（自己株式を除く）を取得し、当社は上場を維持したまま同社の子会社となるとともにチェンジホールディングス・グループの一員となりました。そして、昨年12月にはチェンジホールディングスと当社との間に中間持ち株会社であるサイリーグホールディングス株式会社を設置し、チェンジホールディングスが所有する当社の株式をすべて同社に移す予定です。サイリーグとはサイバーセキュリティのリーグ（同盟・連合）という意味で、サイリーグ社の傘下に当社を含めた多数のサイバーセキュリティのプレイヤーを集めていきます。このサイリーグホールディングスの代表取締役社長には私が就任し、イー・ガーディアン の社長と兼務しています。この提携によって、当社は当面の業績向上という比較的短期に実現できる課題と、日本のサイバーセキュリティにおけるメインプレイヤーにチャレンジするという中長期的目標の二つを実現する計画です。

当面の業績向上は どのように実現される計画でしょうか。

具体的にはこの提携によって、エンタープライズ系BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）の受注拡大が具体的、かつ大規模に展望できるようになりました。当社はこれまで、ゲームやSNS等のエンターテインメント系BPOを中心に展開してきましたが、先ほども述べましたように市場の頭打ち状態が続いています。しかし、当社はBPOを展開する人材と実働部隊、ノウハウを擁しており、一般企業や地方自治体などに横展開できれば業績の拡大が可能です。ただ、そのための営業ノウハウがありませんでした。一方のチェンジホールディングスは地方自治体や一般企業を顧客としてコンサルティング業務のみを提供しており、BPOの人材と実働部隊を有していません。チェンジホールディングス・グループとしてのコンサルティングの結果、クライアント企業にBPOの導入が妥当であるという結論になっても、グループ外に委託するしかありませんでした。これが提携によって、当社の人材とノウハウ、実働部隊を活用してグループ内でBPOを提供で

きる、言い換えると当社がチェンジホールディングスの得意先のBPOを受注できる可能性が著しく高まったわけです。

因みに、チェンジホールディングスの経営陣はアクセント出身者によって占められていますが、外資系コンサルティングファームの中でもアクセントの日本における成長は顕著です。それは同社がコンサルティング業務のみでなくBPOまで受注しているからです。チェンジホールディングスと当社の戦略的提携によって、その成長の方程式がチェンジホールディングス・グループ内においても、実現可能になったと言えます。

例えば、チェンジホールディングスのグループ会社であるトラストバンク社はふるさと納税の「ふるさとチョイス」で有名ですが、地方自治体の約96%を顧客としており、こうしたチェンジホールディングス・グループのクライアントにBPOとサイバーセキュリティを提供していくことで、業績の急速な回復が実現できると確信しています。

地方自治体や
一般企業への
コンサルティング

CHANGE
HOLDINGS



EG E-Guardian
We Guard All

BPO業務に関する
人材・ノウハウ

サイバーセキュリティについての 取り組みの方向性を教えてください。

チェンジホールディングスとの戦略的提携の最大の目的は、日本における国産のサイバーセキュリティ分野でのメインプレイヤーへとイー・ガーディアンを飛躍させることです。その背景には、日本のデジタル赤字が5~6兆円もあり、主要なデジタル分野で日本企業の主要なプレイヤーが存在していない上に、日本の主要企業だけでなく政府や自衛隊、警察のサイバーセキュリティすら諸外国と比べると覚束ない状態にあることが挙げられます。しかも、これらの市場に外国企業が大きく参入している現状は、日本社会の安全にとって大変な脅威になりうると言わざるを得ません。今後ますます重要性が増し、需要が拡大していくことが必然とされるこのサイバーセキュリティ分野を、外国企業ではなく日本企業が担う必要があります。当社も独自にその道を探っていましたが、チェンジホールディングスも同様の考えから国産サイバーセキュリティのメインプレイヤーを担える企業を探していました。そして、日本のサイバーセキュリティの第一人者である徳丸浩を擁する当社にその可能性を見出し、当社への友好的TOBで戦略的提携に踏み切ったわけです。こうしてスタートした提携により、私たちは当面、6,000人規模のサイ

バーセキュリティエンジニアを、雇用はもちろんネットワークやコミュニティの協力関係を含めてサイリーグ傘下に集めようと考えています。そのためのブランディング政策も準備中ですし、すでに多くのエンジニアを擁するデジタルアーツコンサルティングのM&Aも完了しています。チェンジホールディングスの力も活用しつつ、この規模をさらに拡大し、数千人規模のエンジニアが必要とされるような大型案件を担える陣容を早急に整えていく計画です。

CyLeague

名称	サイリーグホールディングス株式会社
本店所在地	東京都港区虎ノ門 3-17-1 TOKYU REIT 虎ノ門ビル6階
代表者の 役職・氏名	代表取締役社長 高谷 康久
事業内容	サイバーセキュリティ事業及びデジタル・トランスフォーメーション関連事業並びにそれらを行う会社の株式保有、事業活動の支援及び管理

最後に株主の皆様へのメッセージを お願いします。

株主の皆様には、当社のこのチャレンジをご理解いただき、ご支援いただいていることに深く感謝申し上げます。そのお気持ちに応える意味でも、当社の配当方針を変更し、配当性向を30%程度へと高め、今期の1株当たりの配当予想を期初予想の27円から31円といたしました。

また中長期的に当社の株を保有していただくことを目的として株主優待制度を新設しました。具体的には毎年9月30日現在の当社株主名簿に記載または記載された100株(1単元)以上を保有している株主様を対象として、継続保有期間が1年以上の方には8,000円分の、1年未満の方には5,000円分のQUOカードを贈呈いたします。この決定により、当社の総利回り(配当+優待利回り)を向上させ、株主の皆様への還元をより高めることといたしました。当社の決意をお汲み取り頂き、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をお願いいたします。

株主優待の内容

① 対象となる株主様

毎年9月30日現在の当社株主名簿に記載または記載された100株(1単元)以上を保有している株主様を対象といたします。

② 株主優待の内容

保有株式数	継続保有期間	
	1年未満	1年以上*
100株以上	5,000円相当の QUOカード	8,000円相当の QUOカード

*1年以上継続して保有する株主様とは、毎年9月末日時点を基準として、同一株主番号で3月末日及び前年9月末日の株主名簿に、3回以上連続で記載または記録された株主様といたします。

代表取締役社長
高谷 康久



会社概要 (2024年3月31日現在)

商号	イー・ガーディアン株式会社 E-Guardian Inc.
代表者名	代表取締役社長 高谷 康久
設立	1998年5月
資本金	1,967百万円
従業員数	連結2,376名(うち臨時従業員数1,986名)
本社	〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー8F TEL: 03-6205-8857 FAX: 03-6205-8858
関連会社	■ EGセキュアソリューションズ株式会社 ■ EGテストングサービス株式会社 ■ E-Guardian Philippines Inc. ■ E-Guardian Vietnam Co.,Ltd. ■ イー・ガーディアン東北株式会社

株式情報 (2024年3月31日現在)

株式の状況

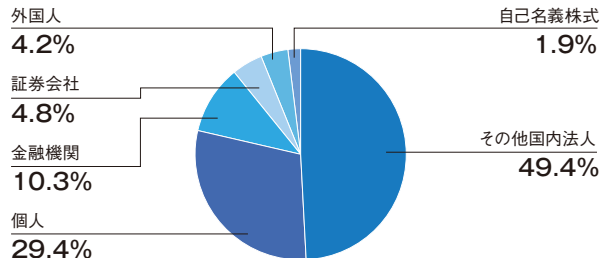
発行可能株式総数	32,400,000株
発行済株式の総数 [うち自己株式221,274株]	11,933,516株
株主数	5,805名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社チェンジホールディングス	5,844,624	49.90
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	794,100	6.78
高谷 康久	661,904	5.65
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	358,038	3.06
木下 圭一郎	336,700	2.87
株式会社SBI証券	282,659	2.41
溝辺 裕	113,250	0.97
藪 太一	100,000	0.85
野村證券株式会社	93,480	0.80
宮坂 誠	73,004	0.62

(注) 1. 当社は、自己株式を221,274株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。また、持株比率は小数点第2位未満を四捨五入して表示しております。
3. 自己株式には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式(178,138株)は含まれておりません。

所有者別株式数の分布状況



株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月に開催
株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告とする。 やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行う。

電子公告掲載URL
<https://kmasterplus.pronexus.co.jp/main/corp/6/0/6050/index.html>



イー・ガーディアン株式会社
<https://www.e-guardian.co.jp/>

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー8F
TEL:03-6205-8857 FAX:03-6205-8858

